



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と  
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE

第11号

発行日：平成26年11月30日

発行：特定非営利活動法人

M・I・T・O 21

〒310-0851 水戸市千波 508-34

発行責任者：黒澤輝子

## ヒューマンライフシンポジウム 2014 に参加して

9月は水戸市男女平等参画推進月間です。一連の事業が開催され、最終日にあたる9月27日はJR水戸駅ビルエクセルホールに於いて男女平等参画社会へ向けた標語や写真コンテストの入賞作品の発表、平等推進に貢献された企業や団体、市民の代表の方々の表彰式がありました。

その後行われたヒューマンライフシンポジウムは「女性が仕事をするということ」の演題で「恋歌(れんか)」で直木賞を受賞した朝井まかてさんの基調講演、「時代の窓を拓いた女と男」のトーク&トークです。



「恋歌」は幕末の水戸藩士の林忠左衛門以徳の妻登世(後の樋口一葉の師となった歌人中島歌子)の生涯を描いたものです。大阪出身の朝井さんが水戸藩を題材にしたのは幕末を同じように潜り抜けた薩摩藩が水戸に心を寄せられていたことを知ったからとのことでした。性別役割分担が明確な江戸時代の女性の仕事は夫を支え、家事全般は妻が仕切るという立場です。將軍を支える数千人の御殿女中の組織、大奥は今でいう官僚のような体制で、権力を駆使し、しきたりをもって束ねる統率者は老中にも匹敵するとのことでした。

各藩にも同様に奥女中がおり、また市井の女性たちも家政をしきる重要な立場にいました。女性の仕事の価値はその時代には評価されていた感を持ちました。水戸藩の男性が各々の正義で始めた凄惨な内部抗争に必然的に巻き込まれてしまった水戸の女性たち。すべてを失い夫亡き後その想いを鎮魂歌として詠み、歌人として決然として立ち、再生していく登世の強さ、しなやかさは著書を通して私たちに教えてくれました。

トーク&トークでは朝井さんが水戸人の気質は「理屈っぽい」「怒りっぽい」「骨っぽい」=3っぽいと言われていたが、3こい=「賢い」「人懐っこい」「情がこい」と新説を披露してくれ、これをもっとアピールしてはどうかと提案されました。水戸人として「なるほど言われてみればそうだしイメージチェンジができる」と確信しました。

さらに天狗党・諸生党の戦いでつらい体験をした水戸の女性は、現在世界の中で宗教、政治の問題で戦っていることに対して共存の必要性をここから発信していくことに意義があるとも述べました。今こそ平和を願う女性の力が必要とされていることを教えられました。関西弁で明るく話をする一方で秘められた強さと柔軟さは「恋歌」登世を彷彿させてくれました。会場 300 人の参加者にとっても、これほどまでに水戸を近くに感じている朝井まかてさんの魅力に引き込まれたシンポジウムでした。(田山知賀子記)

# =大人の社会科見学 2014=

実施日 平成 26 年 6 月 5 日 参加者 28 名

## 茨城県内のものづくりの現場へ出かけ



**てみませんか！**と題し、トマトソースや野菜ジュースでお馴染のカゴメ茨城工場、アルミ缶製造の日本ナショナル製罐株式会社の見学と石岡市内の男女共同参画推進グループの石岡ハーモニーネットの方との交流、NHKの小さな旅で紹介された石岡市の看板建築、映画「3丁目の夕日」で使われたレトロな街並みの散策など盛りだくさんの内容でした。

まずはじめに記念撮影、「はいトマト」

パチリで工場の中へ、研修は積木箱の椅子に腰かけ、工場のレクチャーです。

○カゴメで使うトマトは 6 割が茨城産、○野菜ジュースに使う人参は 8 割が茨城産、○立地の特徴は原料調達の優位性、水環境がいい。交通網も JR 羽鳥駅脇、常磐道からも近い。○工場の屋上には太陽光発電設備が備えられています。屋内はガラス張りの見学通路から 2 班に分かれ、野菜ジュースの 1L 紙パックライン：フィルムライン：ラブレライン(植物性乳酸菌入りの飲み物)などの充填機械が無人で動くシステムの説明を受けながら、クイズ形式で製品作りのお話を伺いました。

交代で試食時間が設けられ、ジュースの試飲やめんつゆにトマトジュースを利用し、そうめんを食べました。またカゴメ社が中心となって東日本大震災の震災遺児へみちのく未来基金を創設し、奨学金を贈る取り組みをされており、茨城工場で作られた商品を見学した私たちが買い上げると、その売り上げは子どもたちの学費になるそうです。

カゴメを後にしてお昼は石岡市内へ移動、中町通りの食事処でランチをとりました。小雨模様の中、石岡ハーモニーネットの方が案内役をしてくださり、江戸時代末期に建てられた染物屋丁子屋(まち蔵藍)をはじめ、安政元年創業の府中誉(株)は主屋、長屋門、文庫蔵など懐かしさのたたずまいを感じてきました。

午後は柏原工業団地内の工場通用門で日本ナショナル製罐株式会社の担当者が雨に濡れながらお待ちになっていました。休憩施設と思われる大きな部屋に管理職の方々もお揃いで、入りながら、靴カバーをかけ、耳栓を配布されました。映像で会社概要の説明の

のち 4~5 人のグループごとに工場内へ誘導されました。モノづくりの原点は「6S」=作法・躰・整理・整頓・清掃・清潔]これが基本。この工場はアルミ缶を単なる金属加工品ではなく、人々の口に直接触れる食品容器です。お客様に安心と安全、そして感動を届けたいという精神が満ちあふれていました。自社自慢の製品は飲み物入りでお土産としていただきました。参加者一同、心の栄養もたっぷり得られた一日であったことでしょう。(事務局記)



## 修復された弘道館の見学



東日本大震災被災の修復なった弘道館を、学芸員の小坪のり子さんの説明を受けながら見学しました。6月27日という暑さ厳しい中にも関わらず、館内に一步足を踏み入れたとたんひんやりとした空気がいにしえを偲ばせました。

震災から3年を経過して、大修復を終え一般公開となったことは、水戸市民にとって安堵するところです。小坪さんからその修復作業について細かに説明を受け、また今までは何気なく通り過ぎていた内部のひとつひとつが新たな発見となりました。

例えば、藩主が滞在する正庁・至善堂の床は二重構造になっていたこと、壁紙は8枚の和紙を重ね合わせて作られていたことなど、現在でも非常に難しい工法で建造されていたことに驚かされました。これらの修復には大変な苦勞があったことと伺い知ることができました。

第9代藩主齊昭公の創設の建学の志を今に伝える弘道館を世界遺産にという活動も展開中ですが、今回の大修復こそが登録されるべきではないかと思いました。また、学芸員の小坪のり子さんは、今回「ヒューマンライフシンポジウム 2014」の講師としてお迎えすることになっており、改めて弘道館に対する真摯なお姿に感銘を受け、シンポジウムへのご出席がより期待されるものとなりました。(兼子千恵子記)



復旧工事で分かった床の構造の説明を受ける



弘道館は開設された天保12年(1841)以降、安政2年(1855)安政の江戸大地震、大正12年(1923)関東大震災と震度6以上と推定される地震を経験した建造物です。被災後、旧弘道館復旧整備検討委員会は、時代を隔てた歴史資料を紐解きながら、決定された方針に基づいて復旧工事を平成24年4月から始めてきました。玄関の鳥瞰図は茨城県女性団体からの懇志を受け、再現されたもののレプリカです。私たちも「偕楽園・弘道館復興支援の会」に協力をしました。弘道館は平成26年3月27日に全面復旧し、見学者が次々と訪れています。

## 緑陰講座「植物公園・薬草園」を見学して

8月22日 水戸市植物公園において西川綾子植物公園園長の案内を受け、説明を聞きながら暑さを忘れて心が癒される素敵な空間を過ごしました。公園はテラスガーデン、花の回廊、カクタス室などがある鑑賞大温室や熱帯果樹温室、芝生園、ロックガーデン、植物館等がある洋風の庭園です。熱帯から亜熱帯までの植物が見られ、初めて目にする植物を前に感激しました。周辺の自然に合わせ野草を植え、水の流れを作り出すなど自然美と人工美の調和した景観が足を止めて周りを見渡すと何とも言えない特徴があります。鑑賞大温室等の暖房には清掃工場の余熱を利用しているのも特色の一つだそうです。話を聞くまでは知らなかった事が聞いてびっくり、再利用の活かし方も色々あることが分かりました。薬草園では、江戸時代初期に家庭の医学書として刊行された「救民妙薬」に登場する薬草をはじめ、季節ごとに様々な薬草をみることが出来ます。水戸藩第2代藩主・徳川光圀公は領民が病気やけがをしたとき薬が入手できない、医者の治療が受けられない事情を知り、庶民のための医療体制・健康作りに着手し、庶民あつての藩と国、その実践的な証となったのが「救民妙薬」だったということ学びました。



そして日々の健康に関して、江戸初期の時代から食文化には、水戸の食とそこに秘められた健康を守っていくために知恵によって、改めて茨城の地産地消が今広く関心と興味もたれるようになってきたと思います。この春「水戸藩にまつわる薬草展」を開催した際には大好評だったとのこと。私たちも薬草のお茶とランチをいただき、元気をもらい心地よい気持ちになり、植物公園を後にしました。(太田元子記)

## 日本女性会議 2014 札幌に参加して

10月17日から札幌コンベンションセンターにて

全国の男女が約1900名参加し日本女性会議が開催されました。札幌市の人口は約194万人で(全国5番目)市議会議員68議席中、女性議員は17議席で男女比が25%になります。この比率は、女性が政策決定の場へ参画していくための大きな目標値であり課題ともなっていますので、札幌市に続けるよう女性たちの更なる躍進を期待したいと思いました。札幌大会は～未来の景色は私たちが変える～と題して基調講演や分科会が行われ「自分が変わることで家族が変わり、社会を変えることが出来る」とのメッセージを心に刻み、一人ひとりの意識の変革がいかに大切かを肌で感じる事が出来ました。また、大会当日の朝、北海道の台所である札幌中央卸売市場の水産・青果セリ見学会に参加し、セリ見学では、サンマが豊漁の為ダンブカーごとセリ落とされることや、マグロのセリでは、仲買人がとても小さく見える程の巨大マグロを見ることが出来ました。青果では、茨城県からメロン・栗・梨・さつまいも・キャベツ・白菜・レタスなどの野菜や果実が沢山入荷していることを知りました。市場の売上は1日約6億円で、年末になると筋子やいくら・たらこ・カニだけで15億円程の売上になるそうですが、ネット販売の拡大により30年前に比べると10分の1に減収したそうです。その後、近くの場外市場で北海グルメの朝食を頂き、北海道の海産物が軒を並べる商店街の買い物を楽しんで、大会々場へバスで移動、車窓から眺める北の大地は、紅葉が真っ盛りで楽しい思い出の1頁となりました。(横田幸子記)

編集後記 今年度は企画講座を屋外で学ぶことで多くの方と関わりをもちました。それはすべて地域の宝物の発見に繋がりました。今後も男女平等参画社会の啓発に楽しい企画を広げてまいります。ぜひまたご参加ください(事務局)

来年は岡山県倉敷市(H27.10.9～)です。